



明日に向かって 伝える 続ける

パルシステム 放射能レポート

pal*system

2025年3月3回

次回は6月企画予定です

裏面の『きぼうのでんき』もご覧ください。

甲状腺がん患者のこと “忘れない” でください

原発事故当時福島県にいた30歳以下の若者284人※に、甲状腺がんの手術が行われました。数あるがんのなかでも子どもの甲状腺のがんはとくにまれ。今回は、福島県の県民健康調査で「命を救われた」と話す若者を取材しました。

※第53回「県民健康調査」検討委員会より



はやし りゅうへい
林 竜平さん

福島県福島市出身。23歳。10歳のときに、原発事故を経験。16歳のときに甲状腺がんを発症し、半摘出手術を受ける。自身の経験を生かし、病院や学校現場のカウンセラーをめざし、大学院で勉学に励む。

母の涙が語った事実

パルシステムが被災者応援のため助成している団体のひとつ「3・11甲状腺がん子ども基金」では毎年、東日本震災が起こった時期に甲状腺がんの当事者らを招いたシンポジウムを開催しています。そのうちのひとりが林竜平さんです。

林さんの甲状腺に腫瘍が見つかったのは、原発事故から6年がたった高校2年生のときです。

「県民健康調査でしこりが見つかり、病院で細胞診（腫瘍の一部を抜き取って行う精密検査）を受けました。先に親だけが呼ばれて嫌な予感がありました。診察室に入ると母が泣いていて、ああ「がん」なんだって。でも、早期発見でしたし、死に直結する病気ではなかったためすんなり受け入れられました」

甲状腺がんは、肺や心臓といった主要臓器のがんと違い、今すぐ生命に関わるわけではないため経過観察をすすめるられることもあります。一方、のどに近い臓器のため失声や呼吸困難、転移のリスクもはらんでいます。林さんも「これ以上腫瘍が大きくなると声が出なくなる恐れがある」と言われ、甲状腺の半摘出手術を決めたそう。半摘出は、術後甲状腺機能が回復する見込みの高い治療法ですが、人によってはホルモンバランスが乱れ、慢性的な疲労感や頭痛など満足に日常生活が送れなくなるケースもあります。

「私は回復できたし、恵まれていました。厳しい食事制限に付き合ってくれた家族にも感謝しています。年に一度の経過観察だけは転移が見つからないかドキドキしますが」

あとで聞いた話ですが、と林さん。「がんが見つかったあと、母はずいぶんと自責の念にかられたみたいですよ。『私が原発事故のあと給水所や買い物に連れていったせいで』って」



郡山市で開催したシンポジウムでの林さんの講演風景

わが子を案じ、事故で飛散した放射能の影響を憂える親は少なからずいます。

また、東京地方裁判所では、原発事故後甲状腺がんを発症した若者が事故との因果関係を争う「3・11子ども甲状腺がん裁判」が続いています。林さんは「僕は甲状腺がんと事故の関係について語るだけの情報はないので」と参加していませんが、原告も自分も、発信しようとする原動力は同じものを感じると言います。

「根っこにあるのは『甲状腺がんに罹患した人間が福島にいる。その中の自分という存在を認めてほしい』っていう気持ち。そのため私が選んだのは名前を出して伝えていくこと。データを並べるだけより、イメージしやすくなりますよね」

一方で、震災から10年以上が経過するなか、支援が先細りしつつあるのも喫緊の問題です。福島県では「県民健康調査」縮小論も持ち上がっています。「せっかく始めた取り組みを縮小するのはまだ早い。私のように命を救われる人がいるかもしれないし、甲状腺がん患者支援の新しい切り口になるかもしれません。声を上げ続けることでひとりでも多くの人の耳に入り、甲状腺がん患者にもそうでない人にもくらしやすい社会になってほしいです」

東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援金

組合員からの応援金により、続けられる活動があります

通年で募集を行っています。

6桁の注文番号を入力してください。

●注文用紙、インターネットでいつでも受け付けています。

●インターネットの場合「買い物カゴ（注文内容確認画面）」にある「利用ポイント」より「変更」を開き、入力してください。

	現金募金	ポイント募金
300円(ポイント)	186601	169056
1000円(ポイント)	186619	169064

3・11甲状腺がん子ども基金

東京電力福島第一原子力発電所事故後、甲状腺がんと診断された子どもや若者を対象とし、これまで福島県内外の250人以上へ経済的支援を行いました。また、2021年より甲状腺がんの当事者や専門家による「当事者の声をきく」シンポジウムも開催しています。

当事者の声をきく シンポジウム

「子どもの甲状腺検査。何のため？ だれのため？」

日時 3/8(土) 14時～17時
参加費 無料(要事前申込)
場所 福島県いわき市 産業創造館会議室
オンライン配信あり

甲状腺がん子ども基金



パルシシステムの 公式サイトや注文アプリで 放射能検査の結果や 内容が確認できます

放射能対策に取り組み続けます。

パルシシステムは、2011年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故直後から、放射能対策を進めてきました。2011年9月には食品中の放射能の自主基準を設定、国より厳しい基準でお届けする食品の放射能検査を行っています。また、放射能が検出された産地と協力した低減への取り組みや、被災者への支援も続けてきました。今後も放射能検査や対策を続けていきます。

検査結果を毎週お知らせ

公式サイトから見る場合

- ①公式サイトを開く
- ②トップ画面を下にスクロールする
- ③「News お知らせ」から「放射能検査のお知らせ」を探してクリックする



※トリチウム検査の結果は、毎週ではなく検査毎に都度更新します。

注文アプリから見る場合

- ①トップ画面の「メニュー」をタップする
- ②「メニュー」画面の「商品関連情報」をタップする
- ③「商品関連情報」画面の「放射能検査結果」をタップする

検索して見る場合

「お知らせ」のページは
こちらから



放射能 お知らせ パルシシステム



検査基準・方法はここから確認

- ①「パルシシステムの放射能検査はこちら」をタップ
- ②「放射能検査」のページに移ります



※画面は見本です。



「放射能検査」のページはこちらから



インターネットから見られない方は、
下記よりお問い合わせをお願いします

パルシシステム問合せセンター

0120-868-014

月～金曜日：9時～20時
土曜日：9時～17時

※通話料は無料です。 ※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。



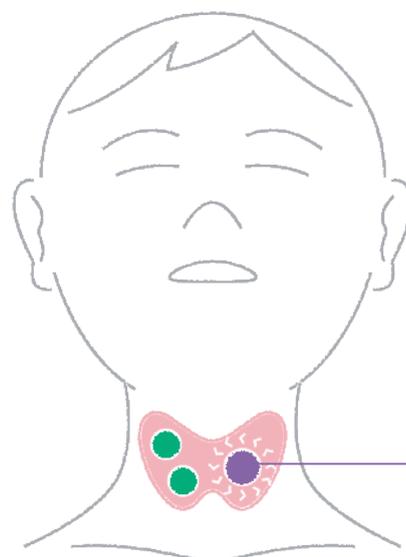
原発事故と甲状腺がんの関係って？

甲状腺と「ヨウ素」の関係

甲状腺は、のどぼとけの下にある小さな臓器。食べ物に含まれる栄養素のひとつ「ヨウ素」を集めて、甲状腺ホルモンを作っています。「ヨウ素」には、無害な「ヨウ素」と放射線を出す有害な「放射性ヨウ素」の2種類があります。しかし、甲状腺はそれらの区別ができず、多く取り込んだ「放射性ヨウ素」による内部被ばく（からだの内側から放射線を浴びる状態）が、甲状腺がん発症の一因となります。被ばく後ヨウ素剤を服用するのは、甲状腺をヨウ素で満たし、放射性ヨウ素の吸収を抑えるためです。

健康調査は継続されている

被ばくと甲状腺がんの関係は、1986年に起きたチェルノブイリ（チェルノブイリ）原発事故後に発見されました。2011年の福島原発事故で放出された放射性ヨウ素は、チェルノブイリの1/10以下ですが、通常では考えられない量です。事故との因果関係については、今でも議論が続いています。福島県では県民の健康を守るため、原発事故のあった2011年から「県民健康調査」を実施しています。放射性ヨウ素の影響を受けやすいとされる事故当時18歳以下に対しては、超音波を用いたより慎重な検査を行っています。



- **ヨウ素**
ミネラルの1種。
海藻類に多く含まれる
- **放射性ヨウ素**
ヨウ素129、ヨウ素131
などの放射性物質

「放射性ヨウ素」を、
甲状腺が取り込む
↓ ↓ ↓
内部被ばくが起き、
がん発症の一因に